

舟渡 野村万作

佐渡 野村萬齋

令和6年 6月9日(日) 午後2:00開演(午後1:30開場)

全席指定(税込) SS席 7,000円 / S席 6,000円 / A席 5,000円
一関文化センター大ホール
4月11日(木)
チケット一般発売
プレイガイド

野村万作・萬齋 狂言公演 舟渡 野村万作



一関文化センター 開館四十周年記念
岩手県一関市大手町 2-16 (JR一ノ関駅) 西口より徒歩約7分
【主催】NPO法人一関文化会議所 【協賛】有限会社文林商会
お問合せ 一関文化センター Tel 0191-21-2121

番組

◎解説 高野 和憲

佐渡 狐

越後の百姓 野村 萬齋
奏者 石田 幸雄
後見 破石 晋照

舟ふな

太郎冠者 中村 修一
主 高野 和憲
後見 破石 澄元

舟渡 鴛

船頭・舅 野村 万作
姑 飯田 豪
後見 中村 修一

〈あらすじ〉

佐渡 狐 (さどぎつね)

年貢を納めに都へ上る途中で道連れになった佐渡と越後のお百姓。佐渡に狐のいるいないを巡り賭けをすることになったが、実は佐渡に狐はおらず、狐を知らない佐渡のお百姓は、奏者(取次の役人)にワイロを使い味方についてもらう。しかし奏者の「佐渡に狐はいる」という判定に納得のいかない越後のお百姓に、狐の形格好を問いただされ...

越後のお百姓の追及に必死で答える、佐渡のお百姓と奏者の連携プレーが見どころです。世相を風刺しつつ、中世の人々のたくましく生きる姿が笑いの中に描かれた狂言です。

舟ふな (ふねふな)

主人が太郎冠者を連れて西宮見物に行く途中、神崎の渡しに着く。太郎冠者が渡しの舟に向かって「フナやーい」と呼ぶので、主人が「フネ」と呼ぶようにたしなめると、太郎冠者は古歌を引き合いに出して「フナ」が正しいのだと言い張る。主人も別の古歌で応酬するが納得せず、次々と別の古歌を引き合いに出してくる。主人は同じ歌しか思い浮かばず、苦戦を強いられているところに、ある謡の一節を思い出し...

違っているはずなのに賢そうな太郎冠者と、正しいはずなのにとぼけた主の応酬が見どころです。言葉遊びの軽妙な味わいをお楽しみ下さい。

舟渡 鴛 (ふなわたしむこ)

京都から初めて妻の実家に挨拶に行く鴛が大津松本から渡し舟に乗る。酒好きの船頭は、鴛の持つ酒樽に目をつけ振舞うよう迫るが、断られると、舟を漕ぐのをやめたり、激しく揺らしたりして強引に無心する。鴛は仕方なく酒を飲ませ、軽くなった酒樽を持って舅宅へ出向く。やがて外出していた舅が帰宅するが、舅は鴛の顔を見てびっくり仰天。舅こそが先ほどの船頭だったのだ。舅は様を変え、顔を隠して対面するのだが...

舟に乗っている様子が棹一本で表現されるなど、狂言のマイムとしての面白さがあります。舅と鴛の掛け合いの妙をお楽しみ下さい。

〈プロフィール〉



1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、文化功労者、日本芸術院会員。2023年文化勲章受章。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパン・ソサエティ賞等多数の受賞歴を持つ。「月に憑かれたピエロ」「子午線の祀り」「秋江」「法螺侍」「敦一山月記・名人伝一」等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では、「檀山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。



1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦一山月記・名人伝一」「子午線の祀り」能狂言「鬼滅の刃」「ハムレット」など古典の技法を駆使した作品の演出で幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能大賞を受賞。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。



1999年生。野村萬齋の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学文学部卒業。能楽協会会員。3歳の時に「靉猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、「三番叢」「奈須与市語」「釣狐」を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を動めている。2023年3月には世田谷パブリックシアター「ハムレット」でタイトルロールを演じ、活動の場を広げている。